

名古屋大学博物館所蔵 「毛利フーフェラントコレクション」リスト

A list of Dr. Koichi Moori's collection chiefly composed of medical literature featuring Prof. C. W. Hufeland (1762-1836), including Japanese translations in the Edo Era, recently donated to the Nagoya University Museum

西川 輝昭 (NISHIKAWA Teruaki)¹⁾

1) 名古屋大学博物館
The Nagoya University Museum, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

Abstract

Listed herein is the collection composed chiefly of medical literature made by the physician, Mr. Koichi Moori (1909-2002) in Nagoya, Japan. This features the famous German professor of medicine, Dr. Christoph Wilhelm Hufeland (1762-1836). The collection, recently donated to the Nagoya University Museum, is composed of 148 articles, including Hufeland's "Die Kunst das menschliche Leben zu verlängern" and its Dutch, French, and English translations, "Enchiridion medicum oder Anleitung zur medicinischen Praxis" and its Dutch and Japanese translations in the Edo Era, and books on Dr. Hufeland's life. During his career as a medical practitioner for more than 50 years, Dr. Moori had deeply devoted himself to the book "Enchiridion medicum", especially the chapter entitled "Die Verhältnisse des Arztes" on ethical and practical guides for medical doctors, since he was much impressed by the Japanese translation of the chapter when he was a medical college student. Dr. Moori even gave the first Japanese translation of an yet untouched chapter of "Enchiridion medicum". Thus, Hufeland's guiding principle remains alive among thoughtful and humane persons in modern Japan.

はじめに

故毛利孝一氏(1909~2002)は、名古屋医科大学(名古屋大学医学部の前身)出身で、名古屋市において内科医院を開業のかたわら、ドイツの高名な医学者フーフェラント(フーフェラントなどの表記もある、Christoph Wilhelm Hufeland、1762~1836)の医学史的研究を続けられた(毛利氏略歴は別項)。その遺品が、2002年8月に名古屋大学博物館へ寄贈され、「毛利フーフェラントコレクション」(NUM-Lr0004)と名付けられた。本コレクションは、以下のリストが示すように、フーフェラントの原著やその日本語を含む各国語による翻訳書各種をはじめ、古和洋書を中心とした医学史資料148点から成る。

フーフェラント(扶歇蘭度、扶歇蘭土などと表記される)の著作は、幕末の蘭方医(蘭学者)が競って学んだ代表的な西洋医学書である。とりわけ、彼の50年にわたる医療経験をまとめた"Enchiridion medicum"(ここでは『医学必携』と呼ぶ)には、緒方洪庵(大阪の「適塾」主宰者)による大冊をはじめいくつかの部分訳があるが、本コレクションにはその主要なものが、ドイツ語原本や蘭仏英語の各国語版とともに網羅されている。その規模において国内随一といってよい。

「病メル者ヲ見テコレヲ救ハムト欲スル情意是即医術ノ由テ起ル所ナリ」の名文で知られる医師の倫

理・行動指針『医戒』は、フーフェラントのこの著書の一章を、幕末に杉田成卿（玄白の孫、1817～1859）がオランダ語版から翻訳したものである（図1）。毛利氏は、それを学生時代に巖父の京都土産にもらって以来、「町医者50年座右の書」（毛利、1990）として、日々の診療の精神的指針とされた。また、『医学必携』のうちまだ日本語訳のなかった部分を、ドイツ語原本から翻訳された（毛利、1983a, b）。氏の本書への傾倒ぶりがうかがえる。

本コレクションが、「医の倫理」や「医の原点」を追求する医学生、医学者、医学史研究者をはじめ、さまざまな方面で活用されることを願っている。なお、閲覧を希望される方は、必ず事前に博物館事務室までご連絡いただきたい（電話 052-789-5767）。

毛利孝一氏略歴

1909年名古屋市中区生まれ。第八高等学校を経て、名古屋医科大学（いずれも名古屋大学の前身校）を1934（昭和9）年卒業、勝沼精藏教授主宰の第一内科入局。後に一宮市立病院内科部長、院長を歴任。1942年、『蘭学事始』を独訳出版（Mori, 1942）。同年召集され、中国の大同陸軍病院に軍医として勤務。1946年復員し、名古屋市昭和区菊園町で毛利内科を開業以来、1997年まで50年余にわたり診療を続けた。1963年、名古屋内科医会を創設し初代会長を1988年までつとめた（その後名誉会長）。愛知医科大学理事・評議員（1982-92）、顧問（1992～2000）、客員教授（1984～2001）として次世代教育にも貢献した。医学史家としての業績の一端には上で触れた。3度の臨死体験をもとにした『命よみがえる』（1973 金剛出版）、『生と死の支配者（C. ツックマイヤー著）』（1980 金剛出版）、『命ふたたび』（1982 中日新聞本社）、『生と死の境』（1985 東京書籍）をはじめとした著訳書や、医学史関係の論文がある。

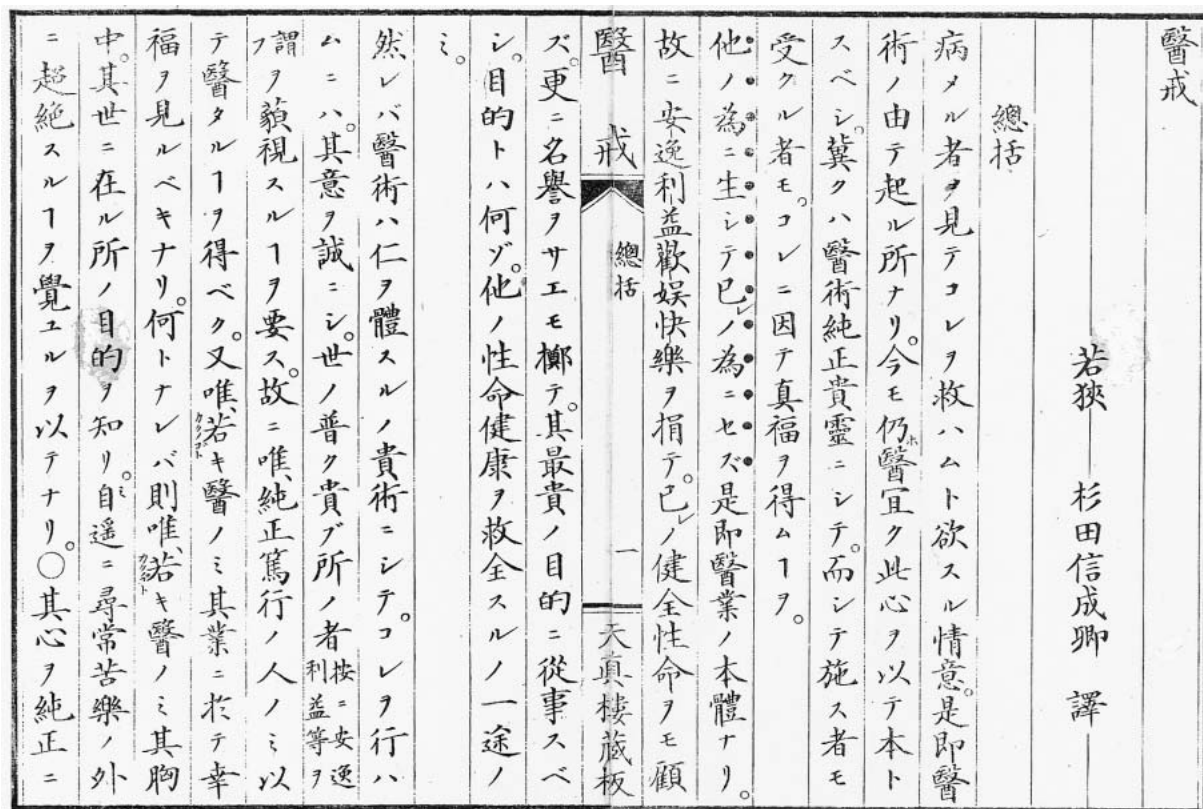


図1 杉田成卿（訳）『医戒』の本文第一丁

2002年3月5日に92歳で逝去後、3月7日付中日新聞朝刊と6月7日付読売新聞中部朝刊が記事を掲載し、『名古屋内科医会誌』111号(2002年7月15日発行)は追悼特集を組んだ。上に記した毛利氏の略歴は、これらの記事に基づいたものである。

「毛利フーフェラントコレクション」リスト

以下の項目に付した1～148の数字は、登録番号NUM-Lr0004の枝番号を示す。

[フーフェラントの著書]

- 1) Hufeland, C. W. 1797, Die Kunst das menschliche Leben zu verlängern, vol. 1 (Theoretischer Theil), Bey Thad, Edl. v. Schmidbauer u. Kamp, Wien, xvi+280+6 (unpaginated) p. (次の2とともに、『長生術』として知られている著作で、杉本(1992)によれば、幕末の抄訳として辻恕介訳『長生法』、宇都宮三郎訳『長生真訣・長生術略説』、高野長英・岡研介訳『蘭説養生録』が知られている)
- 2) Hufeland, C. W. 1797, Die Kunst das menschliche Leben zu verlängern, vol. 2 (Practischer Theil), Bey Thad, Edl. v. Schmidbauer u. Kamp, Wien, 338+4 (unpaginated) p.
- 3) Hufeland, C. W. 1797, Die Kunst das menschliche Leben zu verlängern, Akademischen Buchhandlung, Jena, xxiv+696p.
- 4) Hufeland, C. W. 1797, The art of prolonging life, J. Bell, London, vol. 1, xxiv+274p., vol. 2, viii+331p. [2 volumes bound together] (『長生術』の英語版)
- 5) Hufeland, C. W. 1829, The art of prolonging human life, New Edition, [出版社名は蔵書票に覆われていて不明], London, xxxix+328p. (『長生術』の英語版)
- 6) Hufeland, C. W. (ed. by Erasmus Wilson) 1854, Hufeland's Art of prolonging life, Ticknor, Reed, and Fields, Boston, xvi+328p. (『長生術』の英語版)
- 7) Hufeland, C. W. 1799, L'art de prolonger la vie humaine, Hignou et Comp., Lausanne, xiv+358p. (『長生術』の仏語版)
- 8) Hufeland, C. W. 1799, Kunst om het menschelijk leven te verlengen, vol. 1, Johannes Allart, Amsterdam, lii+279p. (『長生術』のオランダ語版)
- 9) Hufeland, C. W. 1799, Kunst om het menschelijk leven te verlengen, vol. 2, Johannes Allart, Amsterdam, viii+412p. (『長生術』のオランダ語版)
- 10) Hufeland, C. W. 1860, Macrobiotik oder die Kunst das menschliche Leben zu verlengern, Georg Reimer, Berlin, xiii+456p. (『長生術』のドイツ語新版)
- 11) Hufeland, C. W. 1837, Enchiridion medicum oder Anleitung zur medicinischen Praxis, 3rd ed., Litteratur=Comptoir, Derisau, xiv+539p. (『医学必携』原著第3版; 初版は1836年出版直後に売り切れ、フーフェラントが病床で増補した第2版が死の直前に出版された。第3版は翌年、すなわちフーフェラントの死後に出版されたものである。原著第2版をもとにしたオランダ語版(1838年刊行)が日本に輸入されていくつもの翻訳が作成されることになる(以上はフーフェラント(杉田絹枝・杉田勇訳、1988)の記者解説、および緒方(1977)による); 書籍に添付された毛利のメモによると、本書は1980年に全国数ヶ所で開催された「緒方洪庵と適塾展」の一部の会場で展示された; 詳しくは毛利(1980)参照)
- 12) Hufeland, C. W. 1842, Enchiridion medicum oder Anleitung zur medizinschen Praxis, 6th ed. (8 Abdruck), Jonas Verlagsbuchhandlung, Berlin, Litteratur=Comptoir, Derisau, xiv+586p.

(『医学必携』ドイツ語版第6版)

- 13) Hufeland, C. W. 1841, *Enchiridion medicum: Handleiding tot de geneeskundige praktijk*, vol. 1, C. G. Sulpke, Amsterdam, xii+496p. (『医学必携』オランダ語版)
- 14) Hufeland, C. W. 1841, *Enchiridion medicum: Handleiding tot de geneeskundige praktijk*, vol. 2, C. G. Sulpke, Amsterdam, viii+454p. (同)
- 15) Hufeland, C. W. 1848, *Guter Rath an Mütter über die wichtigsten Punkte der physischen Erziehung der Kinder*, Earl Enobloch, Leipzig, xiv+225p.

[その他の古洋書]

- 16) Schaarschnudtz, S. 1749, *Therapia generalis, oder Abhandlung von denen üblichen Arzneien, nach ihren mahren Eigenschaften und.....*, Verlag Joh. Jacob Schubens, Berlin, 18 (unpaginated)+646+56 (unpaginated) p.
- 17) Sprengel, K. 1800, *Versuch einer pragmatischen Geschichte der Arzneikunde*, Zweyte, umgearbeitete Auflage, vol. 1, Johann Jacob Gebauer, Halle, xii+688p. (Sprengelは医学関係の古和書中で「斯索簾傑兒」と表記される人だが、日本医学への影響については不詳)
- 18) Sprengel, K. 1800, *Versuch einer pragmatischen Geschichte der Arzneikunde*, Zweyte, umgearbeitete Auflage, vol. 2, Johann Jacob Gebauer, Halle, vi+714p.
- 19) Sprengel, K. 1801, *Versuch einer pragmatischen Geschichte der Arzneikunde*, Zweyte, umgearbeitete Auflage, vol. 3, Johann Jacob Gebauer, Halle, viii+632p.
- 20) Sprengel, K. 1801, *Versuch einer pragmatischen Geschichte der Arzneikunde*, Zweyte, umgearbeitete Auflage, vol. 4, Johann Jacob Gebauer, Halle, x+598p.
- 21) Sprengel, K. 1803, *Versuch einer pragmatischen Geschichte der Arzneikunde*, Zweyte, umgearbeitete Auflage, vol. 5, Johann Jacob Gebauer, Halle, viii+678p.

[フーフェラントの著書を翻訳した古和書]

- 22) 杉田成卿(訳) 医戒, 嘉永2年[1849]5月, 天真楼蔵板, 秋田屋太右衛門ほか, 36丁 (『医学必携』オランダ語版の一章の翻訳; 原書およびオランダ語版の各章には通し番号が付されていないが、ここでは毛利(1983a, 1990)の番号付けに従うことにすると、『医戒』はその第21章にあたる; 毛利(1983a,b)の翻訳はドイツ語原版の第3、4章から行われ、後者が本邦初訳である、毛利(1990)参照)
- 23-25) 山本美致美(訳) 扶氏診断, 安政戊午[1858], 遮莫楼蔵版, 3冊, 上巻26丁, 中巻38丁, 下巻39丁 (『医学必携』オランダ語版の第1-3章の翻訳)
- 26-35) 緒方洪庵(訳) 扶氏経験遺訓, 安政4年初秋[1857], 適適斎蔵, 10冊, 第1冊1-3巻76丁, 第2冊4-7巻101丁, 第3冊8-11巻143丁, 第4冊12-14巻75丁, 第5冊15-17巻89丁, 第6冊18-20巻109丁, 第7冊21-23巻107丁, 第8冊24-25巻107丁, 第9冊薬方編上下64丁, 第10冊付録1-3巻96丁 (『医学必携』オランダ語版第5-19、22章の翻訳; 洪庵は20年間かけて出版にこぎつけた後、数年後に54歳で死去、緒方(1977)参照)
- 36-38) 杉田成卿(訳) 濟生三方・医戒附刻, 文久辛酉[1861]晩春, 復聖堂・生白堂蔵, 3冊, 上巻27丁, 中巻57丁, 下巻54丁 (『医学必携』オランダ語版第20-21章の翻訳; 天真楼蔵版による1849年刊本の再刻)

- 39-45) 堀内素堂 (訳) 幼幼精義, 米沢日涉園蔵, 青藜閣発行, 須原屋伊八・須原屋茂兵衛, 発行年の記載なし, 7冊, 第1冊26丁, 第2冊21丁, 第3冊13丁+「名称義略」17丁+杉田立脚による天保14年 [1843] の後書1丁, 第4冊29丁, 第5冊20丁, 第6冊17丁, 第7冊22丁+正誤表1丁+伊東玄朴による「嘉永紀元之夏」[1848] の跋文2丁 (『医学必携』オランダ語版第19章の翻訳らしい; 発行年は、杉本 (1992) によると、前編3冊は1843年、残りは1849年)
- 46-48) 青木浩斎 (訳) 遠西名医扶歇蘭度 察病亀鑑, 安政4年仲秋 [1857], 舎童軒蔵, 3冊, 上巻26丁, 中巻39丁, 下巻28丁 (下巻は嘉永6年 [1853] 正月, 須原屋茂兵衛ほか発行) (『医学必携』オランダ語版第1-2章の翻訳)
- 49) 三宅英斎 (訳) 穢歇蘭度方剂録, 55丁 (稿本ないし写本、用紙の版心には「四如堂」と印刷されている; 『医学必携』オランダ語版第22章の翻訳らしい)

[その他の古和書]

- 50-53) 杉田玄白 (訳) 解体新書, 安永3年 [1774] 仲秋, 東武書林, 須原屋市兵衛, 4巻4冊, 第1巻22丁, 第2巻23丁, 第3巻24丁, 第4巻26丁
- 54-56) 緒方洪庵 (訳) 病学通論, 嘉永2年 [1849] 初夏 (3巻は安政4年 [1857] 初秋, 若山屋茂助ほか), 適齋蔵, 3冊, 第1冊44丁, 第2冊40丁, 第3冊19丁+広告2丁
- 57-59) 宇田川棒斎 和蘭内景医範堤綱, 風雲堂蔵版, 青藜閣発行, 発行年の記載なし, 3冊, 第1冊35丁, 第2冊35丁, 第3冊19丁+広告7丁
- 60) 宇田川棒斎 和蘭内景銅版図, 文化戊辰 [1808] 3月, 青藜閣, 須原屋伊八, 折本17丁
- 61) 久保謙亨 養生論, 文政9年 [1826] 仲冬, 16丁
- 62-64) 水野澤斎 朱雀経験養生弁, 天保13年 [1842] 初春改鐫, 須原屋茂兵衛ほか, 3冊, 上巻53丁, 中巻51丁, 下巻43丁
- 65-67) 水野澤斎 朱雀経験養生弁後編, 須原屋茂兵衛ほか, 発行年の記載なし, 3冊, 上巻47丁, 中巻46丁, 下巻36丁
- 68-71) 貝原益軒 貝原養生訓, 天保14年 [1843], 須原屋茂兵衛ほか, 4冊、第1冊1-2巻60丁, 第2冊3-4巻47丁, 第3冊5-6巻48丁, 第4冊7-8巻と付録66丁
- 72) 武部芸甫 発泡打膿考, 文化15年 [1818] 3月, 紀藩普濟堂蔵版, 総田屋平右衛門ほか, 47丁+後記1丁
- 73) 森鸞斎 颯説, 31丁 (嘉永4年 [己酉とあるところから2年の誤記か] 9月の写本)
- 74) 智積院主党違謙順 (校訂) 補忘記, 元禄8年 [1695], 奥村源兵衛, 95丁 (清野謙次博士旧蔵とのメモ書き添付)
- 75-78) 森嶋中良 紅毛雑話, 天明7年 [1787] 9月, 須原屋茂兵衛, 4冊, 第1冊1巻26丁, 第2冊2巻19丁, 第3冊3巻21丁, 第4冊4-5巻と付録38丁
- 79-81) 田口和美 解剖攬要, 明治10年 [1877], 田口和美蔵版, 第2巻57丁, 第4巻58丁, 第13巻63丁

[フーフエラントの著書のリプリント版など]

- 82) Hufeland, C. W. 1823 [1975], Die Kunst, das menschliche Leben zu verlängern / Makrobiotik, Hippokrates Verlag, Stuttgart, 524 p.
- 83) Hufeland, C. W. [1971] (森・北編), Die Verhältnisse des Arztes, 初版, 南江堂, 東京, 67 p.

『医学必携』第21章の教科書用編注)

- 84) Hufeland, C. W. [1979] (森・北編), Die Verhältnisse des Arztes, 2版, 南江堂, 東京, 67 p.
(同)

[フーフエラント関係の医学史資料]

- 85) Anonymous, 1833 Glückwunsch an Herrn Christoph Wilhelm Hufeland....., am Tage seiner Jubel-Feier, Berlin, 2 (unpaginated)+160 p. (フーフエラントの博士号取得50年記念祝賀会の参加者サイン帖、詳しくは毛利 (1994a, b) 参照)
- 86) Neuburger, M. 1926 Die Lehre von der Hielkraft der Natur im Wandel der Zeiten, Verlag von Ferdinand Enke, Stuttgart, 212p.
- 87) Hertwig, H. 1954 Arzt von Gottes Gnaden, Ludwig Bechauf Verlag, Bielefeld, 371p.
- 88) Veil, W. H. 1963 Goethe als Patient, Gustav Fischer Verlag, Stuttgart, 303p.
- 89) Pfeifer, K. 1968. Christoph Wilhelm Hufeland: Mensch und Werk, VEB Max Niemeyer Verlag, Halle, 278+16 (unpaginated) p.
- 90) Spann, W. 1971 Hufeland und die Seuchenlehre, Dissertation, Universität München, Sieglinde Galanski geb. Grieger aus Königshütte, 68p.
- 91) Goldmann, S. 1993, Christoph Wilhelm Hufeland im Goethekreis: Eine psychoanalytische Studie zur Autobiographie und ihrer Topik, M & P Verlag für Wissenschaft und Forschung, Stuttgart, 297p.

[その他の医学史資料・論文別刷など]

- 92) 今裕(訳編)1931[1978]ヒポクラテス全集, 岩波書店, 東京(名著刊行会による復刻版), 3+1352p.
- 93) 緒方富雄 1944. 蘭学のころ, 弘文社, 大阪, 3+598p.
- 94) 緒方富雄(編著)1976 緒方洪庵 適々斎塾姓名録(複製および解説編), 丸善, 東京
- 95) 永井幸一郎(編)1922 杏林叢書 第1編, 吐鳳堂書店, 東京, 6+252p.
- 96) 永井幸一郎(編)1923 杏林叢書 第2編, 吐鳳堂書店, 東京, 2+297p.
- 97) 大槻茂雄(編)1912 磐水存響, 軋, 編者発行, 東京, 11+2pls+3+20+1pl.+2+4+4+2+20+44+6+8pls+6+2+6+44+22+4+2+10+28+30+20+24+19+90+32+30p.
- 98) 大槻茂雄(編)1912 磐水存響, 坤, 編者発行, 東京, 2+2+35+19+4+8+28+24+33+56+32+36+6+128+28+84p.
- 99) Monumenta Nipponica, vol. 4, no. 1, 1941, Sophia University, Tokyo
- 100-130) 毛利氏に贈られた Horst Hammitzsch 博士の論文別刷 (日比野 (2002) によると、博士は第八高等学校のドイツ語講師をつとめた日本学の研究者で、毛利氏と親交を結んだ)
- 131-138) その他の論文別刷やパンフレット類
- 139) 岩治勇一 1984 大野藩の洋学, 私家版, 4 pls+110p.
- 140) 勝沼精藏博士の論文草稿ノート Nervensystem 1913-14, 1冊(高橋昭名古屋大学名誉教授のご教示によれば、Katsunuma (1915) の論文草稿である)
- 141) エールリヒと秦佐八郎の写真類(名古屋大学第3代総長をつとめた医学者勝沼精藏博士がドイツに依頼して取寄せたもので、勝沼博士の死後、夫人から毛利氏へ贈られた; 秦佐八郎はドイツ留学中、細菌学の長老エールリヒとともに梅毒治療薬サルバルサンを創製)

142) ノート 2 冊 (封入されていた封筒の表に「武蔵大学原田日記抜粋を含む」のメモ書き；昭和初期の貴人の診療記録か)

[毛利孝一 著訳書]

143) 善意の人びと, 1966, 朝日テレビニュース社出版局, 東京, 10 (unpaginated)+259p.

144) 命よみがえる, 1973, 金剛出版, 東京, 306p.

145) 生と死の支配者 (C. ツックマイヤー著の翻訳), 1980, 金剛出版, 東京, 222p.

146) 命ふたたび, 1982, 中日新聞本社, 名古屋, 4 (unpaginated)+319p.

147) 生と死の境, 1985, 東京書籍, 東京, 238p.

[扁額]

148) 緒方公裁書 扶氏医戒之略 (複製；オリジナルは、緒方洪庵 (公裁) が杉田訳『医戒』を参考にして『医学必携』オランダ語版第21章を1857年に抄訳し、自戒をこめて彼の塾 (適塾) に掲げていたもの；この扁額は、1995年に名古屋で開催された第24回日本医学会総会「医学史展示」で使用された。同図録『尾張から見た日本と世界の医学史』(医学史展示小委員会編、1998年刊、p.55参照)

謝 辞

毛利孝一氏遺品をご寄贈くださった毛利美枝子様 (孝一氏夫人) と長尾友子様 (ご長女)、寄贈にあたり格別のご高配をいただいた太田宏愛知県内科医会会長と高橋昭名古屋大学名誉教授に心からお礼申し上げる。高橋先生は、本稿作成にあたり文献資料をはじめ種々ご教示下さったうえ拙稿をご閲読いただいた。また、太田先生と山内一信名古屋大学医学部教授は文献をご恵与くださった。さらに、Edward B. Cutler 教授 (ハーバード大学比較動物学博物館) には英文要約をご校閲いただいた。諸先生に深く感謝する。

文 献

日比野進 (2002) 毛利孝一博士を偲ぶ. *名古屋内科医会会誌*, **111**, 9-11

フーフェラント (杉田綱枝・杉田勇訳) (1998) 自伝／医の倫理, 北樹出版, 東京 [1995年初版、1998年に初版第2刷で改訂], 168+xiv p.

Katsunuma, S. (1915) Zur Frage der Naphtholblauoxydasereaktion des Nervensystems. *Beiträge zur pathologischen Anatomie und zur allgemeinen Pathologie*, **60**, 150-162.

Mori, K. (transl.) (1942) Rangaku kotohajime 蘭学事始 (Die Anfänge der “Holland-Kunde”) von Sugita Genpaku (1733–1818). *Monumenta Nipponica*, **5**, 144-166.

毛利孝一 (1980) 「エンヒリデーオン・メディウム」私記. *医家芸術*, 1980年9月号, 46-49.

毛利孝一 (1983a) 『エンヒリデーオン・メディウム』の未邦訳と思われる二章について (その1). *科学医学資料研究*, **108**, 1-5.

毛利孝一 (1983b) 『エンヒリデーオン・メディウム』の未邦訳と思われる二章について (その2). *科学医学資料研究*, **109**, 1-4.

毛利孝一 (1990) C. W. フーフェラント—思想とその背景. *名古屋医史談話会会報*, **4**, 1-5.

毛利孝一 (1994a) フーフェラントをめぐる人々 (I). *名古屋内科医会会報*, **86**, 40-42.

毛利孝一 (1994b) フーフェラントをめぐる人々 (II). *名古屋内科医会会報*, **87**, 57-59.

緒方富雄 (1977) 緒方洪庵伝 (第2版増補版), 岩波書店, 東京, 4 (unpaginated)+637.

杉本つとむ (1992) 江戸蘭方医からのメッセージ, ペリかん社, 東京, 322.